大規模農場での高病原性鳥インフルエンザ発生を想定した殺処分鶏の焼却処理

京都府中丹家畜保健衛生所

○宮城信司　上村浩一

【はじめに】京都府における高病原性鳥インフルエンザ発生時の鶏体等の処理は、焼却又は埋却としているが、多くの大規模農場（10万羽以上）では農場内の埋却地確保が難しい状況にあるため、焼却処理体制についても整備しておく必要がある。そこで、大規模農場での焼却処理を前提とした防疫作業の課題と対応について整理するとともに、自治体焼却施設における鶏体焼却可能量を把握するため、焼却試験を実施。【防疫作業の課題と対応】廃鶏500羽を用い、殺処分から密閉容器（65L 鶏10羽/箱）への詰替えまでの実地演習を実施。作業人員数や作業動線から、密閉容器詰替えには鶏舎外にシートで被覆した作業場所の確保が必要。また、焼却施設への搬出までの間の密閉容器の仮置き場は、各農場の敷地調査から、密閉容器10箱入りのフレコンバックの2段積みで確保可能。【焼却試験】処理能力75ｔ/日の焼却炉で、ゴミ投入（20分毎に約1t）に合わせて鶏を入れた密閉容器を投入（3、5、7、10箱/回）し、ゴミとの混合可能数量を調査した結果、７箱が適量であり、炉内温度も900℃以上を維持。1日の焼却可能量は、約4，200羽、処理能力の概ね10%量と試算。【今後の対応】大規模農場での発生は、発生地の自治体焼却施設だけでの処理では長期間を要することから、京都府では府内での広域処理による短期間の完了を目指し、各自治体と調整を行っている。